

いだいなしもベアンモン

だい23しょう



モーサヤの4人のむすこは、ゼラヘムラを出て、レーマン人にふくいんを教えに行きました。行き先は、それぞれちがっていました。(アルマ17：12-13)



アンモンはイシマエルの地へ行きました。イシマエルにつくとすぐ、レーマン人はアンモンをしばって、ラモーナイ王の前につれて行きました。(アルマ17：20-21)



アンモンがレーマン人の中であらうと話すと、ラモーナイ王はたいへんよろこんで、アンモンのなわをわけてくれました。(アルマ17：22-24)



アンモンは「王のしもべになります」と言いました。やがてアンモンは、王のかちくのむれの番をするためにつかわされました。(アルマ17：25)



ある日、アンモンたちは、かちくのむれを水のあるところにつれて行きました。すると、レーマン人のどろぼうがやって来て、かちくのむれをおいちらして、めすもうとしました。(アルマ17：26-27, 18：7)



なかまのしもべたちはおそれました。前にもこのわるいレーマン人たちにかちくをうばわれて、ラモーナイ王にころされたしもべがいたからです。(アルマ17：28)



アンモンは思いました。「今こそ神の力を見せ、レーマン人の心をとらえよう。そうすれば、レーマン人もわたしの言うことを聞くようになるだろう。」(アルマ17：29)



アンモンはほかのしもべに言いました。「むれをみな元どおりにあつめたら、ころされずにすむにちがいない。」(アルマ17：31)



アンモンたちはいそいでかちくのむれをさがし、また水ぎわにあつめました。(アルマ17：32)



ところが、またあのレーマン人たちがやって来たので、アンモンはなかまに言いました。「わたしがかれらとたたかっている間みんなはかちくを見はっていてくれ。」(アルマ17：33)



レーマン人のどろぼうたちは、アンモンをおそれませんでした。アンモンをかたんにころせると思ったのです。(アルマ17：35)



しかし、アンモンには神の力がやどっていました。アンモンは石をなげて、何人かをころしました。そのためどろぼうたちは、ひどくおこりました。(アルマ17：35-36)



アンモンをうちころそうと、ぼうをふり上げてかかって来たものたちはみな、アンモンにうでを切りおとされました。どろぼうたちはふるえあがって、にげて行きました。(アルマ17：36-38)



なかまのしもべたちは、切りおとされたどろぼうたちのうでをラモーナイ王の前へもって行き、アンモンの強さとかれのしたことを話しました。(アルマ17：39；18：1)



それを聞いて、アンモンのいだいな力に王はたいそうおどろきました。王はアンモンに会いたいと思う一方、おそれるきもちもありました。アンモンのことをたいいいではないかと思ったからです。(アルマ18：2-4, 11)



アンモンが王のもとへ行くと、ラモーナイ王は何と言ってよいかわ分からず、1時間、何も言いませんでした。(アルマ18：14)



せいいのたすけによって、アンモンは王の考えていることがわかりました。アンモンは自分がたいいいではなく、ただの人間であると話しました。(アルマ18：16-19)



すると王は言いました。「何の力によっておまえはどろぼうたちをうちまかしたのか。なぜわたしの考えていることが分かったのか。それを教えてくれるなら、何でもほしいものをやる。」(アルマ 18：20-21)



アンモンが「わたしののぞみは、王がわたしのことばをしんじてくださることだけです」と言うと、王は「よし、おまえの言うことをみなしんじよう」と言いました。(アルマ18：22-23)



アンモンが、王は神をしんじますかとたずねると、王はたいいはいはしんじると答えました。(アルマ18：24-27)



そこでアンモンは、たいいはいは神であること、神は地上にあるすべてのものをおつくりになったこと、わたしたちの思いを知っておられることを話しました。(アルマ18：28-32)



「人は、神のかたちにかたどってつくられました。わたしは、王やたみにふくいんを教えるために、神によってめさされているのです。」(アルマ18：34-35)



アンモンはせいぶんをつかって、ちきゅうのそうぞうやアダム、イエス・キリストについてラモーナイ王に教えました。(アルマ 18：36, 39)



ラモーナイ王はアンモンのことばをしんじ、つみのゆるしをもとめていのりはじめました。そして、しんだように地にたおれてしまいました。(アルマ18：40-42)



そこでもべたちは、王をきさきのところへはこんで行って、よこたえました。ところが、2日たってもおきないので、みんなは王がしんだものと思ひ、はかにほうむろうとしました。(アルマ18：43；19：1)



しかし、きさきは王がしんだとはしんじられませんでした。アンモンのいだいな力を聞いたきさきは、アンモンにたすけをもとめました。(アルマ19：2-5)



アンモンは、神の力がラモーナイ王に下ったことを知っていたので、王はしんだのではなく、明白になればおき上がると言いました。(アルマ19：6-8)



きさきはひとばん中、王のそばについていました。つぎの日、王はおき上がって、イエス・キリストを見たと言いました。王もきさきも、せいにみたまれました。(アルマ19：11-13)



ラモーナイ王はたみに、神とイエス・キリストについて教えました。王のことばをしんじた人びとは、つみをくいあらため、バプテスマをうけました。(アルマ19：31、35)